



学力・学習状況調査結果について

本年度の全国学力・学習状況調査は、全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に、4月19日（火）に実施され、本校でも、3年生99名が参加しました。

この調査は、本校生徒の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態などを明らかにすることにより、今後の指導内容や指導方法の改善、生活指導などに役立てることを目的としています。

調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・数学）と②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。さらに、国語と数学については、A：主として「知識」に関する問題と、B：主として「活用」に関する問題に分かれています。

8月末に文部科学省から本校の結果が送られてきました。本校では、学園祭や新人戦などの行事への取組と並行して調査結果の分析を行ってきました。このたび、各教科と質問紙調査の分析結果がまとまりましたので、その概要をお知らせいたします。

学校では、「各教科における改善点」を基に取組を進めていきます。調査に参加した3年生は、個人票で自分の結果を確認し、今後の学習に役立ててください。また、各ご家庭でも、後述する「ご家庭へのお願い」をお読みの上、ご指導・ご協力をよろしくお願いいたします。

本校の状況（全国との比較）

※ 文部科学省では、全国平均正答率の±5ポイントの範囲内にある場合は、全国平均と「ほぼ同等で、差はないものと判断できる」としています。

本校の国語A・B、数学A・Bの平均正答率は、全国平均をやや下回ったものの、「ほぼ同等」*といえる結果でした。一方、ほとんどの問題で無解答者の割合が全国平均より少ない状況でした。最後まであきらめずに粘り強く問題に取り組む姿勢は、すばらしいと思います。

また、全国と同様に、「知識に関するA問題よりも、活用に関するB問題の方が正答率が低い」「書くことに関する問題や記述式の問題の正答率が低い」といった課題があります。さらに、質問紙調査については、「家庭での学習時間」に大きな課題があります。

[参考] 教科別の平均正答率（全国と本県の公立中学校）

	国語A	国語B	数学A	数学B
全国平均正答率	75.6	66.5	62.2	44.1
本県平均正答率	75.0	67.5	61.0	43.8

本校の主な成果と課題

国語

A 主として「知識」に関する問題

- 設問全体を通して、県や全国平均をやや下回るものの、各領域ともほぼ平均に近い正答率である。
また、昨年同様、無解答率は低い。これは、基礎的・基本的な知識・技能が身につけていることと、問題を解決しようとする積極的な姿勢、学習への意欲の高さの表れと言える。
- 「話す・聞くこと」については、設問により差は見られるものの、全国平均と比べて、本校における正答率は高いものとなっている。特に、「全体と部分との関係に注意して話を構成すること」に関する設問の正答率が高い。



△ 全国的な傾向と同様に、「言語に関する知識・理解・技能」に関する設問の「文字の形や大きさ、配列に注意して書く」については、本校においても他の設問に比べて正答率が低い。

B 主として「活用」に関する問題

- 設問により差は見られるものの、全体を通して、県や全国平均と比べて、正答率は、ほぼ同じである。また、無解答率が記述式も含めて低い。これは、基礎的・基本的な知識・技能を活用して、問題を解決しようという学習への意欲の高さの表れと言える。
- 「読むこと」に関する設問の「目的に応じて必要な情報を読み取る」については、本校では高い正答率となっている。
- △ 全国的な傾向と同様に、「書くこと」に関する設問の「必要な情報を読み取り、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書く」については、本校においても他の設問に比べて低い正答率となっている。

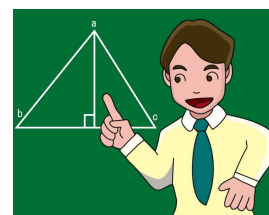
数学

A 主として「知識」に関する問題

- 設問全体を通して、県や全国平均をやや下回るものの、ほぼ平均に近い正答率である。また、県や全国平均と比べて無解答率は極めて低く、問題を解決しようという意欲が高いことがうかがえた。
- 「数と式」「資料の活用」の正答率は、県や全国平均とほぼ同じである。特に、四則計算や正負の数の考え方、確率の技能は高いものとなっている。また、具体的な数値を使った問題や平面図形の問題は、正答率が高かった。
- △ 他の領域に比べて、「関数」領域と「図形」領域の正答率は低かった。
- △ 県や全国の傾向と同様に、「言葉や式の意味を問う問題」「数量関係を文字式で表す問題」「文章問題」「空間図形の問題」などに苦手意識が見られた。

B 主として「活用」に関する問題

- 設問全体を通して、県や全国平均と比べて、ほぼ正答率は同じである。また、無解答率は、県や全国平均と比べても、極めて低い。これは、課題を理解して、何とかして問題を解決しようという意欲の高さの表れと言える。
- △ 県や全国平均と同様に、「図形」領域の正答率は他の領域より低い。特に、図形の移動や証明などの問題は、イメージできなかつたり、手順が分からないようであった。
- △ 「関数」や「記述式問題」を苦手としている生徒が多く、グラフや表の読み取りをしてから解く問題や、「事象を解釈して数学的に説明する」設問への正答率が低かった。



各教科における主な改善点

国語

- * 漢字の読み書きは、確実に身に付けさせたい基礎的・基本的な知識である。日頃からの学習習慣が大切であり、日常生活の中での活用はもちろんのこと、授業の中でも、漢字の学習や作文学習の中で継続して行い、言語能力の育成を図る。
- * 「根拠を明確にして自分の考えを的確に表現する力」を育成するため、授業の中で意図的に「根拠や立場を明確にして自分の考えを書いたり、発表したりする場面」を設定する。そして、その根拠や説明が適切な内容かどうかについて振り返る学習活動を行う。
- * 文脈に即した適切な言葉づかいができるようになるために、それぞれの品詞が文のどのような成分になるかを理解し、単語を類別する学習を行う。

数学

- * 「図形」領域の課題については、授業の中で、実際に手を動かして図形をかかせるようにする。特に、

空間図形では、立体（3次元）を平面の図（2次元）として表したり、具体的にイメージできるように実際の立体を用意して確認したり、映像などを見て視覚的にも理解できるような機会を設け、学習補強に取り組んでいく。

- * 「関数」領域の課題については、授業の中で、式と表、グラフの相互の関係を理解させるようにする。さらに、具体的な事象について、数学的な考えに基づいて事柄が成り立つ理由を説明できるような機会を設定するなど学習補強に取り組んでいく。
- * 「知識」に関する問題での正答率を高めるために、授業での反復練習や家庭での振り返りができる課題を充実させ、基礎・基本の定着を図っていく。
- * 「活用」に関する問題での正答率を高めるために、授業の中に、身近で生徒の学習意欲を高められるような課題（事象を数学的に説明する課題）を適切に位置づけ、筋道を立てて数学的に説明する力（記述力を含む）の育成に取り組む。

質問紙調査から見る本校生徒の主な特徴

質問紙調査は、学校や家庭における勉強や生活の様子について調査したものです。全部で85項目ありました。本校生徒の生活習慣や家庭学習、家庭での過ごし方などの主な特徴は次のとおりです。



生活習慣について

- * 「朝食を毎日食べている」としている生徒は約8割で、全国平均をやや下回っている。
- * 「起床・就寝時間がほぼ決まっている」生徒の割合は全国平均をやや下回っているが、9割の生徒の起床時間は、ほぼ一定である。
- * 就寝時間は午後11時～午前零時が約半数である。しかし、午前零時以降に寝る生徒が約4分の1いる。
- * 平日のテレビ等の視聴時間は2時間以上が全生徒の4分の3である。このうち2時間から3時間未満が3割で最も多くなっている。
- * 平日のゲームに費やす時間は、2時間以上が約半数いる。このうち4時間以上する生徒が2割弱いる一方、全くしない生徒もほぼ同数である。
- * 平日の携帯電話等での通話やメール、インターネットをする時間は、持っていない人を含めて約半数が1時間未満である。しかし、2時間以上の者が4割近くいて、これは前年度調査より多く、全国平均を上回っている。

自分や友達、学級について

- * 「ものごとを最後までやり遂げてうれしかったことがある」と答えた生徒の割合は、全国平均をやや下回っているものの、7割いる。
- * 「失敗を恐れずに挑戦しているか」という問いには、多くの生徒が「あてはまる・どちらかといえばあてはまる」と答えている。
- * 「将来の夢をもっている」生徒の割合は、全国平均をやや下回ったが、「自分にはよいところがある」と答えた生徒の割合は、全国平均を上回っている。
- * 友だちの前で自分の考えや意見を発表することが得意な生徒の割合は、全国平均を上回っている。また、多くの生徒が友だちの意見を最後まで聞いていると答えている。

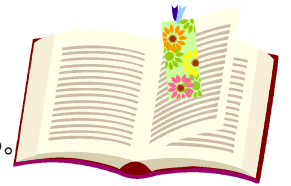
学習や読書について

- * 家庭での学習時間（塾や家庭教師も含む）は、平日では1時間以上2時間未満が最も多く約3分の1である。しかし、1時間未満が過半数を超え、とりわけ「まったくしない」生徒が2割弱である。2時

間以上学習している生徒の割合は全国平均の半分以下である。

- * 休日の学習においても、約半数の生徒は1時間未満で、「まったくしない」生徒も1割強いる。2時間以上学習する生徒の割合は、全国平均の半数である。昨年度は全国平均を上回っていた。
- * 家庭学習については、家で計画的に勉強している生徒の割合は全国平均よりも若干高いが、2割までは、いない。半数の生徒は宿題をやっているが、その割合は全国平均よりも少ない。予習や復習をしていると答えた生徒の割合は、それぞれ1割に満たない。予習や復習をしている生徒の割合は、全国平均のほぼ半数である。
- * 学校で好きな授業があると答えている生徒の割合は、全国平均とほぼ同じである。
- * 授業中に分からないことがあったら、その場で先生に尋ねる生徒の割合は、全国平均よりも高い。
- * 学校図書館や地域の図書館を週1回以上利用している生徒は約3割いるが、読書や新聞など活字に接する機会は少ない。
- * 「読書が好き」と回答した生徒の割合は、全国平均とほぼ同じである。
- * 「読書の時間」は、1日1時間以上の生徒が1割強いる反面、全くしない生徒が3割以上いる。

地域や社会への関心について



- * 地域の行事への参加率は全国平均よりも高いが、県平均よりは低くなっている。
- * 地域などでのボランティア活動には約6割が参加しており、積極的である。
- * 「地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある」生徒の割合は、全国平均をやや下まわっている。

質問紙調査からの改善点

- * 家庭学習の時間を増やす工夫を行う
 - 各教科について学校や家庭での学習の仕方などをまとめた「家庭学習のてびき」を配付しました。また、何を勉強してよいか分からない人のために、手引きには自主学習の課題例も掲載しました。有効活用して自主学習が習慣になるように取り組んでいきます。
 - 「NO TV・ゲーム・スマホデー」にテスト前に取り組んでいます。今後も意識して時間の有効活用を図っていくように呼びかけていきます。
- * 考えさせたり、発表させたりする場面を取り入れた授業を実施する
 - 授業内で、考える時間を十分とったり、発表し合ったりする時間を取り入れたアクティブラーニングを積極的に取り入れた授業を進めていきます。
- * 地域とのつながりをさらに深めていく
 - 地域のさまざまな活動に積極的に参加したり、ゲストティーチャーをお招きしたりするなど、地域との交流が図れるように工夫していきます。

* ご家庭へのお願い *

- * 意欲をもって学習に取り組んでいる様子が見えませんが、家庭での学習時間が少ないため確実に身につけてほしい基礎的基本的なことがらが定着していません。学習時間の確保やトラブル防止の面から、携帯電話やスマホ、ゲームの利用時間（しない日を含めて）についてお子さんと話し合っただけでルールを作ってください。
- * 生活習慣と学力は関係が深いものです。生活リズムを整え、早寝早起き、朝ご飯の習慣を親子で実践していただけますようお願いいたします。
- * 地域の活動には、お子さんと一緒に参加していただくなど、日常的に関われますようご協力をお願いいたします。